

外為マンズレビューⅢ 南半球編

先月までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2017/07/05

世界的金利上昇が南半球通貨にプラスに作用

通貨ペア	基調		ページ数
豪ドル/円	➡	残る利上げ期待 予想レンジ: 83.500~88.500円	2-3
NZドル/円	➡	インフレの伸び加速なるか 予想レンジ: 78.900~86.300円	4-5
ランド/円	➡	利下げが選択肢に 予想レンジ: 8.300~8.800円	6-7

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



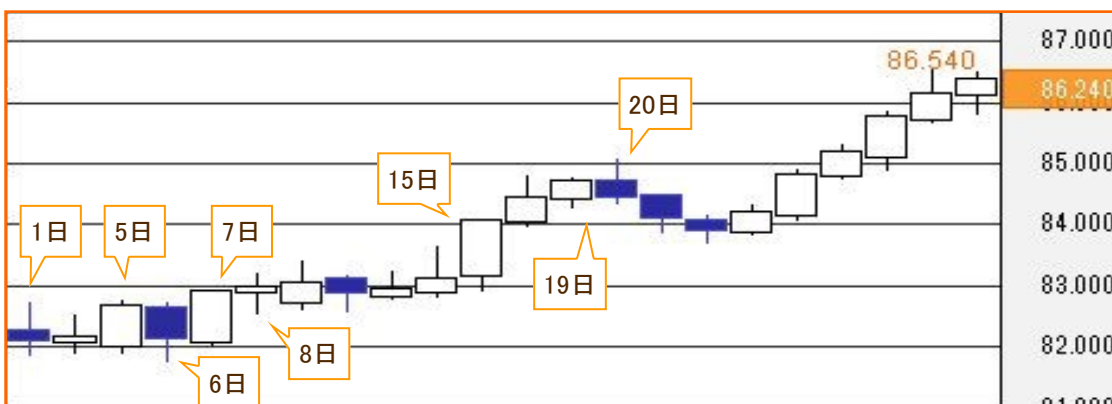
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2017 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

豪ドル/円 6月の推移

AUD/JPY

6月の豪ドル/円は、81.790～86.540円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約5.0%の大幅な上昇(豪ドル高・円安)となった。上中旬は、豪1-3月期国内総生産(GDP)や豪5月雇用統計の結果が豪州景気の回復を示唆した事などからじり高で推移。その後、豪民間銀行の格下げや原油価格の急落などで上昇が小休止する場面もあったが、下旬にかけては円安主導で上昇が加速した。欧州中銀(ECB)の緩和縮小観測が高まった事をきっかけとして世界的に長期金利が上昇する中、日本だけが大規模緩和を維持するとの見方が広がり、円売りを促した。また、世界的な景気改善への期待などから、資源価格が下げ止まり、日米を中心に株価が上昇した事も豪ドルを支援した。



四本値

OPEN	82.308
HIGH	86.540
LOW	81.790
CLOSE	86.412

1日	豪4月小売売上高が前月比+1.0%と予想(+0.3%)を大きく上回った事を受けて一時豪ドルが上昇した。しかし、中国5月財新/製造業PMIが49.6(予想:50.1)と、好不況の分岐点である50を下回ると反落した。
5日	サウジアラビアなど中東4カ国が協調して、テロリズム支援を理由にカタールと国交を断絶。これを受けて原油価格が一時急騰すると、資源国通貨に買いが入り豪ドル/円も上昇した。中国5月財新/サービス業PMIが52.8と4月(51.5)から上昇した事も豪ドルの支援材料となった。
6日	RBAは政策金利の据え置き(1.50%)を決定。「1-3月期GDP成長率は四半期ごとの変動を反映して減速すると予想」「経済成長は今後数年間で3%を少し上回って徐々に上昇すると予想」「労働市場の状態を示す指標は依然としてまちまち」「インフレは景気が高まるにつれて徐々に上昇すると予想」「住宅市場の状況は地域によってかなりばらつきがある」などとする声明を発表した。
7日	豪1-3月期国内総生産(GDP)は、前期比+0.3%、前年比+1.7%となり、昨年10-12月期(+1.1%、+2.4%)から減速した。しかし、市場予想(+0.3%、+1.6%)を前年比で小幅に上回ったため、予想ほど鈍化しなかったとの見方から豪ドルが買われた。
8日	豪4月貿易収支が5.55億豪ドルの黒字となり、市場予想(20.00億豪ドルの黒字)を下回った。その後、中国5月貿易収支も408.1億ドルの黒字と予想(478.0億ドルの黒字)を下回ると、豪ドルはやや値を下げたが、中国貿易収支の内訳で輸入が前年比+14.8%、輸出も同+8.7%と予想(+8.3%、+7.2%)以上に伸びていた事が明らかになると切り返した。
15日	豪5月雇用統計は、失業率が5.5%、就業者数は4.20万人増、労働参加率は64.9%(予想:5.7%、1.00万人増、64.8%)という強い内容であった。
19日	格付け会社ムーディーズは、大手4行を含む豪民間銀行12行の長期格付けを引き下げたと発表。ムーディーズは「住宅セクターに絡むリスクによって豪銀の信用度は負の衝撃に対して一段と敏感になっている」と指摘した。これを受けて一時豪ドル売りが活発化した。その後NYダウ平均が21500ドル台に上昇して(当時の)史上最高値を更新する中、値を戻した。
20日	RBA理事会の議事録で「雇用、住宅市場は依然として慎重なモニタリングを正当化」「世界経済は回復が続いている。コアインフレは依然として低い」「緩和的な政策スタンスを維持することが適切」「豪ドルの上昇が経済の調整を複雑化させる」などが示された。これには豪ドルの反応は限られたが、NY市場に入ると、根強い供給過剰観測を背景にNY原油先物が年初来安値となる42.00ドル台まで下落する中、資源国通貨に下押し圧力がかかり豪ドルも下落した。

AUD/JPY

日経平均

OPEN	19692.16
HIGH	20318.11
LOW	19686.32
CLOSE	20033.43

NYダウ平均

OPEN	21030.55
HIGH	21535.03
LOW	20994.22
CLOSE	21349.63

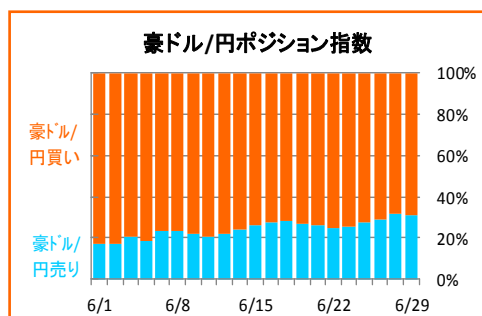
上海総合指数

OPEN	3108.421
HIGH	3193.461
LOW	3078.787
CLOSE	3192.427

豪10年債利回

OPEN	2.399%
HIGH	2.613%
LOW	2.315%
CLOSE	2.598%

6月のポジション動向



7月の豪州・中国の注目材料

- ・6月中国/財新製造業PMI(3日)
- ・5月豪住宅建設許可(3日)
- ・5月豪小売売上高(4日)
- ・RBA政策金利発表(4日)
- ・5月豪貿易収支(6日)
- ・6月中国消費者物価指数(10日)
- ・6月中国貿易収支(13日)
- ・6月中国鉱工業生産(17日)
- ・RBA議事録(18日)
- ・6月豪雇用統計(20日)
- ・4-6月期豪消費者物価(26日)
- ・ロウRBA総裁、講演(26日)
- ・4-6月期豪生産者物価指数(28日)
- ・7月中国製造業PMI(31日)

7月の見通し

豪中銀(RBA)は7月4日の理事会でも中立姿勢を崩さなかった。英中銀やカナダ中銀に倣って利上げ含みのスタンスに修正するとの一部の期待は裏切られた格好だ。RBAは、豪州のインフレ率が低位で推移する中、雇用の改善が賃金の上昇につながるか見極めようとしているのだろう。そうした中、20日の豪6月雇用統計や26日の豪4-6月期消費者物価およびロウRBA総裁の講演が注目される。市場では、RBAの「次の一手」は利上げとの見方は消えていない。豪金利デリバティブから計算した年内に0.25%の利上げが行われる確率は10%強残っている。この確率が上昇すれば豪ドル高が進む公算が大きい一方、低下するようだと(低下余地は小さいが)豪ドル安要因となりそうだ。豪ドルは、リスク選好地合いで買われる半面、リスク回避地合いで売られやすいため、相場展開が外部要因に左右されるケースが目立つが、7月は豪州独自の材料が手掛りとなる場面が増えそうだ。(神田)

(予想レンジ: 83.500-88.500円)

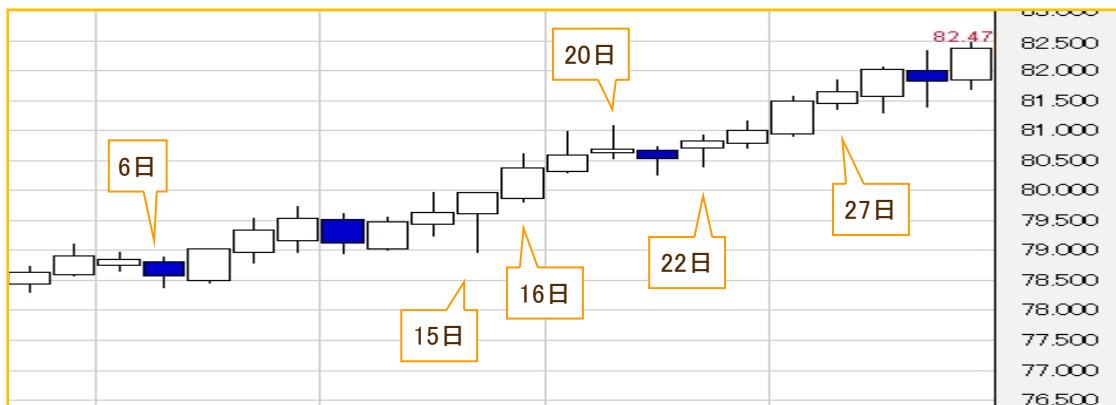
[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

NZドル/円 6月の推移

NZD/JPY

6月のNZドル/円相場は78.318～82.479円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約5.1%の上昇（NZドル高・円安）となった。

日銀が出口政策について慎重な見方を示した事から円売りが優勢となり、NZドル/円は堅調に推移。NZ準備銀行（RBNZ）が声明でNZドル高に懸念を示さなかったほか、日米での株高を受けたりスク・オンの流れも追い風となり、NZドル/円はほぼ一直線で上昇すると、30日に2月以来約4カ月ぶり高値となる82.479円まで上値を伸ばした。



四本値

OPEN	78.441
HIGH	82.479
LOW	78.318
CLOSE	82.396

6日	NZ乳業大手フォンテラの乳製品入札では、GDT指数が前回比+0.6%と、6回連続でプラスとなった。ただ、NZドル/円の反応は限定的であった。
15日	NZ1-3月期国内総生産（GDP）は前期比+0.5%、前年比+2.5%と、いずれも予想（+0.7%、+2.7%）を下回った。これを受けてNZドル売りが優勢となった。
16日	日銀は予想通りに金融政策の現状維持を発表。黒田総裁はその後の会見で「現時点で出口での収益試算公表するのはかえって混乱招く」「現時点で出口の具体的な手法・順序を示すのは難しい」などと述べて出口戦略に慎重な姿勢を示した。これを受けて円安が進む中、NZドル/円は値を上げた。
20日	NZ乳業大手フォンテラの乳製品入札で、GDT指数は前回比-0.8%と、7回ぶりに低下した。原油安を背景に資源国通貨売りが優勢となっていた事もあり、NZドル/円は軟調に推移した。
22日	RBNZは政策金利を据え置く（1.75%）と発表し、政策金利を「相当な期間」維持する方針を改めて示した。また、ウィーラー総裁は依然として多くの不確実性があり、それに応じた政策の調整が必要になる可能性がある」と発言した。ただ、市場で懸念されたほどNZドル高をけん制していないことが明らかとなると、NZドル買いが優勢となった。
27日	NZ5月貿易収支は1.03億NZドルの黒字（予想：4.19億円の黒字）であった。

NZD/JPY

日経平均

OPEN	19692.16
HIGH	20318.11
LOW	19686.32
CLOSE	20033.43

NYダウ平均

OPEN	21030.55
HIGH	21535.03
LOW	20994.22
CLOSE	21349.63

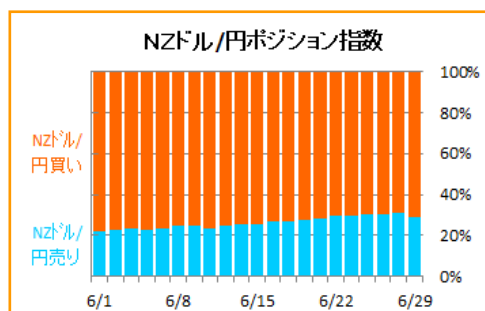
上海総合指数

OPEN	3108.421
HIGH	3193.461
LOW	3078.787
CLOSE	3192.427

NZ10年債利回

OPEN	2.784%
HIGH	2.981%
LOW	2.675%
CLOSE	2.979%

6月のポジション動向



7月のNZの注目材料

- ・NZフォンテラ入札(4日、18日)
- ・6月NZ企業景況感(PMI、14日)
- ・4-6月期NZ消費者物価指数(18日)
- ・6月NZ貿易収支(26日)
- ・6月NZ住宅建設許可(31日)

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

7月の見通し

6月のNZドル/円は月を通してほぼ右肩上がりの展開となるなど、地合いの強さが目立った。こうした中、7月はNZ4-6月期消費者物価(18日)に注目したい。1-3月期は前年比+2.2%と約5年半ぶりにNZ準備銀行(RBNZ)のインフレ目標の中央値(2%)を突破しており、今回インフレの伸び加速が確認されれば、RBNZの次の一手は利上げとの見方が強まりそうだ。その場合は次回8月の理事会に向け、金利先物市場での利上げ織り込み度合いに市場の関心が集まるだろう。

テクニカル面では、日足の一目均衡表で三役好転が点灯している上、週足でも点灯目前となるなど、2015年以降上値抵抗ゾーンとなっている83円台後半を試す機運が高まりつつある。もし突破できれば、月足の一目均衡表の雲上限(今月は86.253円)まで上値余地の拡大が見込まれる。ただ、足元の相場は1カ月半以上に渡りほぼ一本調子で上昇すると共に年初来高値(1月27日高値83.791円)に迫っている事などから、調整への備えもまた必要だろう。(川畑)

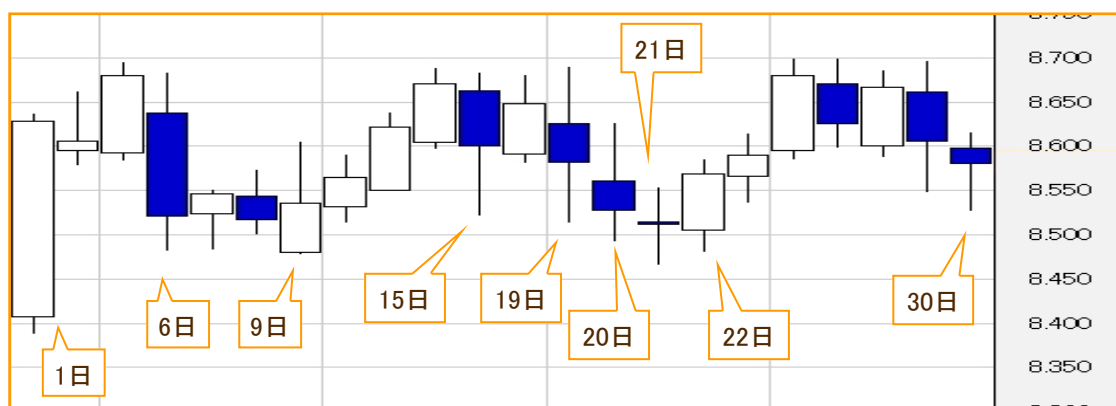
(予想レンジ: 78.900~86.300円)

ZAR/JPY

ランド/円 6月の推移

6月のランド/円相場は8.390~8.699円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約1.5%の上昇(ランド高・円安)となった。

南ア経済が低成長を続ける中、1日の失業率は14年ぶり高水準となった。9日に格付け会社ムーディーズが同国の格下げを発表したほか、21日の南ア5月消費者物価指数を受けて一部で南ア準備銀行(SARB)の利下げ観測が浮上。ランド売り材料に事欠かなかったが、一方で日銀が16日に金融政策の現状維持を発表して円売りの流れが継続したほか、日米を中心とした株高によるリスク・オフの流れもあり、ややランド高・円安に振れた。



四本値

OPEN	8.408
HIGH	8.699
LOW	8.390
CLOSE	8.582

1日	南ア1-3月期失業率は27.7%(予想:27.0%)と、14年ぶり高水準となった。ただ、その後は米5月ADP全国雇用者数の好結果を受けてドル/円相場でドル買い・円売りが強まった影響を受け、ランド/円は8.60円台まで上昇した。
6日	南ア1-3月期国内総生産は前期比年率-0.7%(予想:+1.0%)となった。前回に続いて減少したため、リセッション(景気後退)入りした事から、ランド/円は値を下げた。
9日	格付け会社ムーディーズが南アの格下げ(Baa2→Baa3)を発表。見通しはネガティブとした。もっとも、投資適格級はなんとか維持した事もあり、売り買いが交錯した。
15日	南ア政府が公表した鉱業の資本参加率に関する憲章改定案について、鉱業会社は1年以内に黒人の資本参加比率を現行の26%から30%に引き上げる事が明らかになった。これを嫌気してランド売りが強まった。
19日	「SARBに対して通貨の価値を守るという方針を止め、均衡のとれた持続可能な経済成長を促進する方針に変更するように提案」との南ア監査局の見解が伝わると、ランド/円は一時8.50円台まで下落した。
20日	ギバガ南ア財務相が「(前日の報道に対し)南アは中銀の独立性を損なってはいけない」と発言。ただ、ランド相場の反応は薄かった。
21日	南ア5月消費者物価指数は事前予想通り前年比+5.4%と、前月(5.3%)からわずかに上昇した。もっとも、SARBのインフレ目標(年3~6%)の中に収まったことから、SARBの次の一手は利下げとの市場の見方に影響を与えるものではなかったため、ランド売りが優勢となった。
22日	南ア憲法裁が「大統領の不信任投票を無記名で実施できる」と判断。ただ、無記名による不信任投票の実施を命令するまでには至らず、議会のムベテ議長の判断との見方を示した。
30日	南ア5月貿易収支は95億ランドの黒字(予想:93億ランドの黒字)であった。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

日 経 平 均

OPEN	19692.16
HIGH	20318.11
LOW	19686.32
CLOSE	20033.43

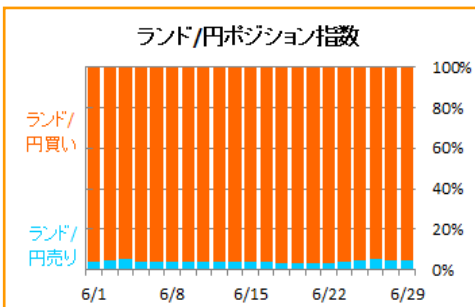
NYダウ平均

OPEN	21030.55
HIGH	21535.03
LOW	20994.22
CLOSE	21349.63

N Y 金

OPEN	1271.60
HIGH	1298.80
LOW	1236.50
CLOSE	1242.30

6月のポジション動向



7月の南アフリカの注目材料

- ・6月南アPMI(5日)
- ・6月南ア消費者物価指数(19日)
- ・5月南ア小売売上高(19日)
- ・SARB政策金利発表(20日)
- ・4-6月期南ア失業率(25日)
- ・6月南ア生産者物価指数(27日)
- ・6月南ア貿易収支(31日)

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

7月の見通し

南ア経済がリセッション入りとなる中、インフレ率が2カ月連続で目標(年3~6%)の中に収まった事により、SARBは早ければ今月の理事会で利下げに動く可能性がある。教科書的には利下げはランド売り要因となるが、それにより国内経済が刺激されるとの期待が高まるようならば、一転してランドが買われる事もあり得る。もっとも、国内経済の低迷は今年12月の与党アフリカ民族会議(ANC)の総選挙を前にした政局の混迷も一因である。また、格付け会社が更なる格下げに動くとの懸念も根強い事から、SARBの金融政策だけで南アが低成長から抜け出すのは容易ではないだろう。したがって、利下げ後にランドが上昇したとしても、その持続性は限られそうだ。

なお、先月は南ア国内の政局に反応してランドが売られる場面が目立った。政局混乱が長引くようならば、南アのさらなる格下げ観測が浮上してランド相場の重石となる事もあり得る。同国の政局に引き続き注意したい。

テクニカル面では、5月以降8.70円前後が強力な上値抵抗となる一方、下値は6月に入ると8.40円台で下げ渋る動きを見せるなど、こう着した動きとなっている。円とランドどちらも手がかり材料を欠く中、足元のレンジブレイクを見守る展開が続く公算である。(川畑)

(予想レンジ: 8.300~8.800円)